

1. “これまでを振り返って” (副会長 原田 賢治 記)

里山ビオトープ二俣瀬も、平成12年9月の発足以来4年目に入りました。市民の憩いの場、子ども達の教育の場、二俣瀬をアピールする場であることを基本にイメージづくりから話し合いを持ち、翌年1月中旬から造成工事に入りました。造る喜び、その形がみえて来る喜びを感じながら会員の力と知恵を出し合って完成させることが出来ました。

活動では、子ども達と共同の田植え、稲刈り、餅つき、ソバ植え、ソバ打ち、ハス掘りと取り組んで来ました。今年は更に、椎茸栽培、子どもを中心とした自然観察隊の結成、活動、炭焼きと新しい事にも挑戦して来ました。各行事を担当される皆さんは、大変なことと思いますが、これもビオトープを中心とした活動の一つだと思います。

ビオトープの取り組みが、大きく評価されたのが、14年4月「緑の日」に受けた環境大臣表彰ではないでしょうか。

見学者も年々多くなりました。特筆は14年9月に国会の文部科学委員会一行30名の視察と思います。国会議員の先生方20名の方にビオトープを視察していただいたことは会員の大きな喜びであり、会員の努力の賜と思います。

これからも、新しい行事が計画されると思います。皆んなで協力し、参加しましょう。

2. 活動報告(事務局 記)

12月2日(火)かねてよりすこしずつ製作していました木材置き場が完成しました。風倒木の木材等を保管します。

12月5日(金)餅つきの準備

12月6日(土)この日は、ビオトープ恒例の収穫祭です、空は少し雨模様でしたが、子供達は元気に餅つきを行いました、今年も「だいごら」が登場、大変美味しいお餅がつけました。帰りには、総勢86名に、お土産のお餅を持って帰って頂きました。

12月15日(月)公明党県議視察 今井会長と田村会員が対応

12月18日(木)宇部西高等学校 伊藤先生他生徒30名 田村、藤村、林各会員が対応

12月19日(金)炭焼き用の窯を美祢農林事務所より借用し、東屋の側に組立、炭用の木を入れました。(北村、田村、西原会員)

12月20日(土)収穫祭第二段のソバ打ちです。自然観察隊の子供たちも加わってソバを打ちました。お昼はソバを食べながら、簡単な忘年会をしました。

12月20日(土)15時に炭焼き窯に火を入れ、1時間後に蓋をして、煙突を取付、木酢液も取りました。北村、原田満洲夫、若林、西原会員が徹夜で火の番をしました。21日の朝10時に火を止めるために、全ての口を塞ぎました。

12月23日(月)炭焼き取り出し、原木約400kgに対して約70kgの木炭が取れました。木酢液も2Lのペットボトル5本ほど取れました。

3. 今後の予定(事務局 記)

見学者

今年は予定がありません。

行事

今年の行事はありません。(来年は、1月17日が作業です。)

4. ビオトープ関連(ビオトープ周辺の植物) 美濃和 信孝

ウラジロとコシダ

今回はシダの仲間をご紹介します。正月の鏡餅の下に敷くことでおなじみのウラジロと、その仲間のコシダです。

ウラジロは、茎(本当は葉柄)から左右に二つの複葉を出し、真ん中から春にまた新芽を出して伸び、何段にも成長するという特異なシダです。一方のコシダは、2段目の葉柄が二つの複葉の間から2つ出てそれぞれ2枚の複葉をつけるので、計6枚の葉がはさみを開いたカニの形を作るのが特徴です。

ウラジロがおめでたいといわれるのは、常緑であることと、「おじいちゃん・おばあちゃん」の間から茎が出て「お父さんとお母さん」の2枚の葉があり、さらにその間から新しい「若夫婦」の2枚の葉が出て、それぞれ裏が白いので、夫婦共白髪まで長生きしますようにという縁起をかついでのことらしいです。

両方とも花崗岩質の土壌を特徴付けるシダといってよいですが、どちらかというコシダの方がウラジロに比べて日当たりの良い場所、例えば南斜面の林縁や明るいマツ林の下を好むようです。コシダは、採ったマツタケを入れる籠の敷物として使われていたようなのですが、それはマツタケが出るアカマツ林の下には、必ずコシダが生えているためだといえます。ところが今、里山は手入れ不良で、マツもマツタケもなくなってしまい、コシダやウラジロばかりが元気に伸びています。

実は先日、昭和山の奥で近道をしようとして山中で藪こぎをするはめになったのですが、このコシダとウラジロの藪には一番手こずりました。数百メートルのことだと思って甘く見たのが失敗のもとでした。関東の里山にはアズマネザサという手ごわい

藪があるのですが、このコシダとウラジロの藪はそれ以上です。胸くらいまで背丈のある密生した藪では、進むも退くもできなくて、進退極まるとはまさにこのことだと思いました。やっとの思いで藪を突破して道に出ることができましたが、獣道を見ると、イノシシでさえもこの藪は避けて、沢沿いの湿地を道にしているようでした。ウラジロとコシダの野生本来の姿をいやというほど思い知る体験となりました。



ウラジロ (ウラジロ科)

コシダ (コシダ科)

5. ピオトープ関連 (連載ピオトープ近辺の案内) 事務局 原田満洲夫 車地八景のその4 (光安の晩鐘)

昭和30年ごろまで車地の下、現在の森さん、松尾さんかたの地にあった光安寺で、冬場は日も早く落ち、暮れがかった鐘つき堂から心打たれる鐘の音は車地の名物であったと思われる。

私が物覚えがついてからは、鐘つき堂は無く、もちろん鐘も戦争の餌食となって供託されてしまっていた。この寺の境内が広く、子供のころは近くのがきが集まって、缶けり、かくれんぼ、凱旋等、日がくれるまで遊びほうけたものでした。

6. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

今回は記帳がありませんでした。

7. 会よりの連絡事項

1) 新年の初行事は1月17日(土)で補修用木材、椎茸のほだ木の移動運搬、浄化木炭の交換を予定しています。

8. 編集後記

サンタクロースは、見えない世界に居て、子供たちに永遠に 夢や喜びを与え続けるそうです。見えない世界には、又 信仰、ロマンス、詩などが有り、暮らしを潤してくれます。寒い時、家の中で暖かくして、見えないものに付いて 考えるのも良いのですが、思い切って外に出てみましょう。

赤い実や、紅葉した木々の葉が 見事です。先日、ウメモドキとガマツミの違いは、よく教えて貰いました。ピラカンサ、クロガネモチ、ヤブコウジなどは、知っています。少し残っているカエデやハゼも、日に照らされて見とれてしまう鮮やかな赤です。一年掛かって見られる、景色です。

我が家の桜が、夏の終わりに害虫にやられて、葉が殆ど無くなりました。それから、手遅れながら消毒したら、又 若葉が沢山出始めて、それがしっかりした葉になり 今は、見事に紅葉しています。他では、枯れ木同然に成っている桜が、未だ 日毎、赤みを増してとても綺麗です。後、数日間の姿でしょうが、見事な様変わりは、素晴らしいです。

二俣瀬ピオトープは、年が明けると 作業の面では四年目に入ります。地元の方の力などあり、丸木橋とか 木材置き場など出来て、周辺も充実して来ました。自然観察隊の子供たちも、サンタクロースの話とは別に、直に体験して 掛け替えの無い思い出を、沢山作った事でしょう。

管理と維持だけで無く、来年は何処がどう発展して行くか……。花もダンゴも大切に、もち米や蕎麦の大収穫も期待せずには、おれません。

では、会員の皆様 良いお歳をお迎え下さい。

(大村 美智子 記)